

## 〈解答〉

- ① 1 (1) ア (2) ①：6 ②：口分田（漢字3字指定）  
2 大宰府  
3 征夷大將軍  
4 エ  
5 〔例〕自分の娘を天皇のきさきとし、生まれた子どもを天皇に立て

配点 ① 2, 3, 5は各2点, 他は各1点 10点満点

## 〈解説〉

- ① 1 (1) 聖武天皇は、743年に総国分寺の本尊として廬舎那仏るしやなをつくる命令を出した。745年から6年あまりかかって751年に完成した。イは平安時代、ウは飛鳥時代、エは鎌倉時代のできごとである。
- (2) 朝廷は、人々（公民）に土地（公地）を与える制度である班田収授法を定めた。この制度では、6年ごとに作成される戸籍にもとづき、家族ごとに口分田という土地が与えられ、その土地を与えられた農民に税がかけられた。
- 2 大宰府は、九州に置かれていた律令政府の出先機関で、福岡県太宰府市にあった。
- 3 征夷大將軍は、蝦夷を討つための官職である。のちに源頼朝が任じられてからは、武家の頭を意味するようになった。蝦夷は律令国家の支配に対し、激しい戦いをくりひろげて抵抗したが、やがて坂上田村麻呂を征夷大將軍とする軍が蝦夷の主な拠点を攻め、東北地方への支配を広げた。
- 4 8世紀の後半、地方では国司や郡司が不正を行うなど、政治が乱れた。桓武天皇は、地方の政治を立て直すために、国司に対する監督を厳しくし、農村の実情に合わせて労役の日数を少なくした。アは奈良時代の初めごろ、イは古墳時代、ウは奈良時代の社会の様子である。
- 5 都では、9世紀中ごろから、藤原氏が他の貴族を退けて勢力を強めた。藤原氏は、娘を天皇のきさきにし、その子を幼いうちから天皇の位に就けることで、朝廷の実権をにぎった。10世紀の中ごろからは、一族の有力者が、天皇が幼いときには摂政、成人したのちには関白という職に常に就き、天皇のそばで政治を動かすようになった。これを摂関政治という。摂関政治は11世紀前半の藤原道長とその子頼通のころに最も栄えた。